

時代を駆けた陶芸家たち

令和6年4月11日(木)～6月11日(火)

展覧会「林康夫・坪井明日香展」に関連して、陶芸の中でも特に現代陶芸(前衛陶芸)にフォーカスして、歴史館が所蔵する書籍などをご紹介します。展覧会とあわせてご覧ください。

第1章 現代陶芸を知る

◇陶芸に親しむための入門書

陶芸についての入門書をご紹介します。やきものを「観る」手法や、現代陶芸を知るための知識とポイントが分かりやすく解説されています。

	タイトル	編著者 発行者	出版年	所在・請求記号 資料ID
1	現代陶芸論	外館和子著 阿部出版	2023	開架・ 751 To17 118032129
2	陶磁：発想と手法	小松誠監修、小松誠ほか著 武蔵野美術大学出版局	2009	開架・ 751 Mu82 110968322
3	初心者のためのやきもの鑑賞入門：見かたが分かるやきもの基本	谷晃監修 淡交社	2000	書庫D・ 751 Sh96 110590184
4	やきもの鑑賞基礎知識	矢部良明編 至文堂	1993	開架・ 751 Y11 110530583

◇前衛陶芸のはじまり

昭和23(1948)年、八木一夫、叶哲夫、山田光、松井美介、鈴木治の5人が京都で結成した「走泥社」は、日本の現代陶芸のはじまりを位置づけたと言われています。伝統的な陶芸にとらわれず、実用性を伴わない「オブジェ焼き」というジャンルを生み出し、同人の入れ替わりを経ながら半世紀にわたり日本の陶芸界を牽引します。ここでは、走泥社をはじめとする前衛陶芸に関する書籍をご紹介します。

	タイトル	編著者 発行者	出版年	所在・請求記号 資料ID
5	八木一夫の写真：カメラを手にした前衛陶芸家	八木一夫写真、京都国立近代美術館編 京都新聞出版センター	2021	開架・ 748 Y15 118028612
6	鈴木治の世界：泥象：「使う陶」から「観る陶」、そして「詠む陶」へ	京都国立近代美術館ほか編集 日本経済新聞社	2013	開架・ 751.1 Su96 110983920
7	展点記(てんでんぐさ)：川上力三作陶50余年の記録	川上力三	2009	書庫D・ 751.1 Ka94 118013218
8	走泥社50年のあゆみ	走泥社50年のあゆみ編纂委員会編纂 走泥社	1999	開架・ 751.1 So17 110543763
9	清水卯一展：パリ展帰国記念：古稀記念	清水卯一作 朝日新聞社	1997	書庫D・ 751.1 Sh49 110576305
10	京都在住現代陶芸家展 第10回	大丸京都店	1996	開架・K1 751.1 Ky6 110579045
11	宮永理吉展	宮永理吉[作] 伊勢丹美術部	1991	書庫D・Y 751.1 042329 110664545
12	生命のかたち熊倉順吉の陶芸	熊倉順吉作、東京国立近代美術館編集 京都府京都文化博物館	1989	書庫D・ 751.3 Ku33 110435424
13	林秀行作品集	林秀行[作]、乾由明監修 山木美術	1984	書庫D・Y 751.1 042206 110664422
14	現代の陶芸 第16巻	乾由明責任編集 講談社	1978	書庫A・E 751.1 G34 16 110370066

第2章 林康夫と坪井明日香

◇林康夫

戦後の前衛陶芸の先駆者である林康夫(1928年～)は京都市東山区生まれ。京都市立美術工芸学校絵画課に入学しますが、第二次世界大戦により海軍航空隊に入隊します。敗戦後、京都市立美術専門学校日本画科に編入学するも中退。その後、父の陶業を手伝う形で陶芸の道に入り、昭和22(1947)年に「四耕会」結成に参加。昭和37(1962)年には「走泥社」に参加。国内外の陶芸展に出品し、海外の陶芸展で立て続けにグランプリを受賞します。

	タイトル	編著者 発行者	出版年	所在・請求記号 資料ID
15	林康夫という生き方：前衛陶芸の時代	坂上しのご著 林康夫	2022	開架・ 751.1 H48 118024477
16	四次元を追求して：美術史および美術市場における林康夫の存在	ミナ・トドロヴァ・ブレネマン[著] [ミナ・トドロヴァ・ブレネマン]	2021	書庫D・ 751.1 B72 118032690
17	戦後の日本陶芸における林康夫と八木一夫	マリリン・ローズ・スワン[著] [マリリン・ローズ・スワン]	2019	書庫C・ 751.1 Sw2 118032691
18	林康夫：芸術への希求、陶で挑む	林康夫[作]、兵庫陶芸美術館編 兵庫陶芸美術館	2016	書庫D・ 751.1 H48 110999354
19	アトリエトーク * 24：陶芸家 林康夫	[京都新聞社編] [京都新聞社]	[2012 -2016]	書庫C・K0 702.8 Ky6 110996509
20	四耕会：前衛陶芸発生のころ：1947年～1956年頃	坂上しのごデザイン・編 井上道子(ギャラリー16)	[2007]	開架・K1 751.1 Sa28 110966597
21	林康夫作品集	林康夫著 河出書房新社	1998	書庫A・E 751.1 H48 110511140
22	京展 第46回 * 依頼出品(京展賞受賞)	京都市美術館[編] 京都市美術館	[1994]	書庫C・K1 703.8 Ky6 110959529
23	林康夫：作陶資料・年譜：前衛陶芸発生のころ 四耕会を中心として	林康夫編 林康夫	1987	書庫D・ 751.3 H48 110435332

◇坪井明日香

日本の女性陶芸家の先駆的な存在として活躍した坪井明日香(1932～2022年)は大阪府に生まれ、京都・泉涌寺の釉彩工房にて陶芸の道に入ります。昭和28(1953)年、第8回新匠会展に初出品・入選し、その翌年、富本憲吉(1886～1963年)に師事します。昭和32(1957)年には、「女流陶芸」を結成し代表となります。以後、数多くの国内外の陶芸展で受賞し、平成4(1992)年に京都府文化功労賞、平成26(2014)年には京都府文化特別功労賞を受賞しています。令和4(2022)年8月26日逝去。享年90歳。

	タイトル	編著者 発行者	出版年	所在・請求記号 資料ID
24	陶説 No.839 2023年6月号：追悼坪井明日香	日本陶磁協会編 日本陶磁協会	2023	書庫E・ トウセ
25	女流陶芸：第50回公募展	女流陶芸	2017	書庫D・ 751.1 J75 118012775
26	坪井明日香：わが心の軌跡	パラミタミュージアム編 パラミタミュージアム	2010	書庫D・ 751.1 Ts15 118030715
27	生誕120年富本憲吉展	京都国立近代美術館ほか編 朝日新聞社	c2006	開架・ 751.1 To54 118019443
28	坪井明日香	坪井明日香[作] 坪井明日香、日本陶磁協会賞金賞受賞記念 展実行委員会	2004	書庫D・ 751.1 Ts15 118030716
29	坪井明日香 陶芸 (NHK工房探訪・つくる；12)	坪井明日香著 日本放送出版協会	1991	書庫D・ 751.1 Ts15 110950803
30	現代の作陶：都会でできる やきもの	坪井明日香編 至文堂	1990	書庫D・ 751.1 Ts15 110950814
31	陶：京都図鑑展	坪井明日香[作] 大雅堂	1987	書庫C・K0 751.1 Ts15 110946881
32	坪井明日香：陶の世界	「坪井明日香陶の世界」展委員会	[1982]	書庫D・ 751.1 Ts15 118031650

第3章 陶芸をもっと知るために

◇陶芸×歴彩館 ー今昔を知るー

伝統的な京焼から現代陶芸まで、歴彩館では陶芸関係の書籍を数多く所蔵しています。歴彩館2階京都資料総合閲覧室(棚番号14)では、常時約150冊の陶芸関係の書籍を並べていますので、この機会にあわせてご覧ください。

	タイトル	編著者 発行者	出版年	所在・請求記号 資料ID
33	新天地を求めた京焼：清水焼団地五十年の歩み	[森野彰人編] 清水焼団地協同組合	c2011	開架・K142 751.1 Ki87 118013266
34	京焼：みやこの意匠と技：特別展覧会	京都国立博物館編集・制作 京都国立博物館	2006	開架・K1 751.1 Ky6 110948090
35	京都	岡佳子文 淡交社	2003	開架・K1 751.1 O36 110917348
36	京焼(日本陶磁大系；26)	河原正彦著 平凡社	1990	開架・K1 751.1 N71 26 110528811